

事故に関係したグループ社員のストレス緩和へ CISM 活動を続けてきた組合に相談を

2024年1月2日、JL516便が羽田空港に着陸後、海上保安庁の航空機と衝突し、機体が炎上しました。お亡くなりになられた海上保安庁の関係者の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。お客様及び乗員は全員脱出できましたが、その後、消火活動、救護、誘導、待機中のお客様のケア等で、整備士を含む地上職員も大変なご苦勞をされていたことと推察します。

社員の心に寄り添う団体があります

日本航空ユニオンでは、乗員や管制官の皆さんとともに今回のような惨事に備えて長い間CISM活動に取り組んできました。

CISM (Critical Incident Stress Management)

惨事(Critical Incident)とは予測できず突然発生する事故や災害などの事態であり、惨事は極度のストレス状態を引き起こし、そのストレスは心身症を誘発したりする。CISMは、惨事ストレスに対する危機介入の方法の一つで、惨事ストレスをより上手にコントロールしたり、和らげたり、上手に付き合っていく方法をいう。

CISMでは、クリティカル・インシデントを次のように定義しています。

1. 航空機事故(乗客、乗務員の重症、あるいは死亡、もしくは航空機の重大なダメージ)
2. 乗客、乗務員の負傷をもたらす航空機インシデント
3. 乗務員、乗客、及び同僚の死亡、もしくは重症が現実的に起こった場合、もしくはその恐れがあるような業務上のインシデント
4. 多数のメディア報道をもたらすような航空機事故、事件、及びインシデントの事象
5. **航空機事故、事件、及びインシデントへの援助活動への参加**
6. 空港、職場への通勤途中で負傷した事故、事件
7. 航空機運航中、及び試運転中のエンジン火災
8. 航空機事故、事件での家族の死、同僚の死
9. 航空機の訓練中のインシデント



honbu@jlu.co.jp

ストレスの症状はさまざま 不安があったらまず相談すること

ICISF: International Critical Incident Stress Foundation (米国の危機管理、国連の安全管理での相談役を務める非営利団体で、CISMのトレーニングを国際的に行っている組織)が定義するストレスのサイン、シグナルは以下のものがあげられます。

身体

悪寒 喉の渇き 疲労感 悪心 失神 痙攣(筋) 嘔吐 めまい 衰弱 胸痛 頭痛 血圧の上昇 動悸 筋肉振戦 ショック症状 歯ざしり 視覚障害 多量の発汗 呼吸困難 他

認知

混乱 悪夢 半信半疑 異常なまでの警戒心 疑心暗鬼 侵入的イメージ 他者を責める思考 問題解決力の低下 客観性の不足 集中力低下 注意力散漫 時間、場所、人や物の認識障害 周りへの注意が増加あるいは減少 他

感情

恐怖 罪悪感 悲嘆 パニック 否定感 不安感 動揺 イライラ感 うつ 衝動的な怒り 予期不安 感情的ショック 感情的爆発 感情のコントロール欠如 不適切な感情の反応、他

行動

引きこもり 反社会的な行動 休みをとらない ペースが活発化する 常軌を逸した行動 社会活動の変化 話し方の変化 食欲の増減 アルコール摂取の増量 コミュニケーションのとり方の変化、他

緊急事態に直接関わった人にとって、感情におけるストレスを経験することは全く正常なことです。惨事に遭遇すると、感情のストレス症状が、数時間か、数日後、あるいは数週間後にあらわれる場合があります。

何か不安やお話したいことがある方は、JLUに相談を。症状の程度によっては、経験豊富な臨床心理士の紹介も可能です。安心してご相談ください。

